

2023 年度

シラバス

環境建設工学科

1 年



科目名	一般教養（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	就職活動時に向けて、ビジネス検定（3級）取得を目標に、社会人として必要な一般常識やマナー、面接での対応等を学ぶ。		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・就職状況や、現在の社会の状況などの講義 ・履歴書の書き方練習 ・面接の練習 ・就職筆記試験対策（ビジネス検定3級受験） 		
その他 （教科書・教材等）	配布資料 プリント		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第1週	就職状況や、現在の社会の状況などの講義		
第2週	履歴書の書き方 ↓		
第3週	↓		
第4週	面接の練習。		
第5週	↓		
第6週	就職筆記試験対策ービジネス検定		
第7週	↓		
第8週	↓		
第9週	↓		
第10週	↓		
第11週	↓		
第12週	↓		
第13週	↓		
第14週	↓		
第15週	まとめ		
《後期》			

科目名	建築計画Ⅰ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築計画の基礎的な理解と技術的知識の修得を目的とする。 建築は、人間の生活、行動、意識と空間との対応関係等を基にして計画されるため、計画理念、居住環境、環境行動などの建築計画の基礎理論と建築種別・施設別の建築施設の計画手法を理解することを目標とする。		
授業の概要	基礎理論および建築施設計画の各論を講義する。基礎理論では、建築計画の概念や建築規模、機能、動線、空間のスケール、空間構成、造形、構法、材料の選定など、人間工学的な見地も踏まえ、建築物の各部を計画する際の理論を講義する。建築施設計画では、住宅・集合住宅・商業施設・事務所建築・公共施設など代表的な用途別建築物の計画プロセスと手法を理論的に講義する。		
その他 (教科書・教材等)	専門士課程 建築計画〈第二版〉(学芸出版社)		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1週 空間の形態Ⅰ 第2週 空間の形態Ⅱ 第3週 人間の知覚と行動Ⅰ 第4週 人間の知覚と行動Ⅱ 第5週 寸法と規模の計画Ⅰ 第6週 寸法と規模の計画Ⅱ 第7週 空間の性能Ⅰ 第8週 空間の性能Ⅱ 第9週 計画の技法Ⅰ 第10週 計画の技法Ⅱ 第11週 外部空間の構成と配置計画Ⅰ 第12週 外部空間の構成と配置計画Ⅱ 第13週 建築設計製図－計画の表現－Ⅰ 第14週 建築設計製図－計画の表現－Ⅱ 第15週 前期まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	建築計画Ⅱ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築計画の基礎的な理解と技術的知識の修得を目的とする。 建築は、人間の生活、行動、意識と空間との対応関係等を基にして計画されるため、計画理念、居住環境、環境行動などの建築計画の基礎理論と建築種別・施設別の建築施設の計画手法を理解することを目標		
授業の概要	基礎理論および建築施設計画の各論を講義する。基礎理論では、建築計画の概念や建築規模、機能、動線、空間のスケール、空間構成、造形、構法、材料の選定など、人間工学的な見地も踏まえ、建築物の各部を計画する際の理論を講義する。建築施設計画では、住宅・集合住宅・商業施設・事務所建築・公共施設など代表的な用途別建築物の計画プロセスと手法を理論的に講義する。		
その他 (教科書・教材等)	専門士課程 建築計画〈第二版〉(学芸出版社)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	住宅（住宅・集合住宅）Ⅰ		
第 2 週	住宅（住宅・集合住宅）Ⅱ		
第 3 週	ホテル・旅館		
第 4 週	病院・診療所		
第 5 週	学校・幼稚園・保育園Ⅰ		
第 6 週	学校・幼稚園・保育園Ⅱ		
第 7 週	事務所建築・庁舎Ⅰ		
第 8 週	事務所建築・庁舎Ⅱ		
第 9 週	劇場・コンサートホール・コミュニティセンターⅠ		
第10週	劇場・コンサートホール・コミュニティセンターⅡ		
第11週	商店・百貨店・ショッピングセンター		
第12週	図書館		
第13週	博物館・美術館Ⅰ		
第14週	博物館・美術館Ⅱ		
第15週	後期まとめ		

科目名	建築法規 I (必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築設計・施工に必要な建築基準法などの法律全般について学ぶ。目標として将来、建築の設計者や工事管理を行う技術者として必要な建築関連法規の知識を習得させる。		
授業の概要	建築基準法・建築基準法施行令・都市計画法を学ぶ。特に、建築基準法については、建築物法規の概念、総括規定、集団規定、単体規定、制限規定など詳細に学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	建築関係法令集		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第2週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第3週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第4週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第5週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第6週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第7週 単体規定 (建築基準法)</p> <p>第8週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第9週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第10週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第11週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第12週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第13週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第14週 集団規定 (建築基準法・都市計画法)</p> <p>第15週 まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	建築法規Ⅱ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築設計・施工に必要な建築基準法などの法律全般について学ぶ。目標として将来、建築の設計者や工事管理を行う技術者として必要な建築関連法規の知識を習得させる。		
授業の概要	建築基準法・建築基準法施行令・都市計画法を学ぶ。特に、建築基準法については、建築物法規の概念、総括規定、集団規定、単体規定、制限規定など詳細に学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	建築関係法令集		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第1週	建築基準法施行令		
第2週	建築基準法施行令		
第3週	建築基準法施行令		
第4週	建築基準法施行令		
第5週	建築基準法施行令		
第6週	建築基準法施行令		
第7週	建築士法		
第8週	建築士法		
第9週	建築士法		
第10週	関連法規		
第11週	関連法規		
第12週	関連法規		
第13週	関連法規		
第14週	後期まとめ		
第15週	後期まとめ		

科目名	建築施工 I (必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築工事における各種施工方法と施工管理について全般的な施工技術を習得する。		
授業の概要	施工計画、工程計画、仮設計画など、施工管理と工程管理について学ぶと共に、コンクリート工事、鉄筋工事、内装工事等の各種工事の仕様・要領などについても学習する。また、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造など構造別の施工法についても理解し、総合的な施工技術を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	専門士課程 建築施工〈第二版〉(学芸出版社) プリント		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 建物が出来るまで (木構造)</p> <p>第 2 週 建物が出来るまで (鉄骨造)</p> <p>第 3 週 建物が出来るまで (鉄筋コンクリート造)</p> <p>第 4 週 施工概要</p> <p>第 5 週 施工業務</p> <p>第 6 週 施工計画</p> <p>第 7 週 枠組み壁工法による住宅</p> <p>第 8 週 仮設工事</p> <p>第 9 週 地盤調査</p> <p>第 10 週 土工事</p> <p>第 11 週 山留工事</p> <p>第 12 週 杭工事</p> <p>第 13 週 在来工法</p> <p>第 14 週 2×4工法 (施工詳細)</p> <p>第 15 週 前期まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	建築施工Ⅱ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築工事における各種施工方法と施工管理について全般的な施工技術を習得する。		
授業の概要	施工計画、工程計画、仮設計画など、施工管理と工程管理について学ぶと共に、コンクリート工事、鉄筋工事、内装工事等の各種工事の仕様・要領などについても学習する。また、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造など構造別の施工法についても理解し、総合的な施工技術を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	専門士課程 建築施工〈第二版〉（学芸出版社） プリント		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第16週 鉄骨構造 第17週 ボルト 第18週 溶接 第19週 鉄骨構造現場施工 第20週 鉄骨・その他 第21週 コンクリート工事 第22週 地盤改良工事 第23週 コンクリート打設 第24週 コンクリートの品質管理・試験方法 第25週 各種コンクリート 第26週 型枠工事 第27週 防水 第28週 左官 第29週 塗装 第30週 後期まとめ			

科目名	構造力学 I (必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築構造の安全性を定量的に検討するための基本である構造力学を理解させる。最も基本となる「力のつりあい」について十分理解させた上で静定ラーメンに進んでいく。		
授業の概要	『構造力学』は、荷重や外力がどのように構造物の中を伝わり、構造物にどのような影響を生じさせるのかを明らかにするものであり、種々の構造を構成するための基本となるものである。力のモーメント、応力、曲げモーメント、せん断力など静定ラーメンの応力やトラスの応力、許容応力度、断面二次モーメント、たわみ等について図式と数式で学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	図説 やさしい構造力学 (学芸出版社) 電卓		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	力のモーメント, 力の合力の計算		
第 2 週	つりあう力の求め方		
第 3 週	合力の大きさと作用位置の求め方		
第 4 週	集中荷重時の反力の計算		
第 5 週	分布荷重時の反力の計算		
第 6 週	静定ラーメンの反力の計算		
第 7 週	中間テスト①		
第 8 週	せん断力、曲げモーメント (1)		
第 9 週	せん断力、曲げモーメント (2)		
第 10 週	せん断力図、曲げモーメント図 (1)		
第 11 週	せん断力図、曲げモーメント図 (2)		
第 12 週	最大曲げモーメントの計算		
第 13 週	中間テスト②		
第 14 週	片持ばりの応力図の書き方		
第 15 週	静定ラーメンの応力図の書き方 (1)		
《後期》			

科目名	構造力学Ⅱ(必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	「力のつりあい」を基本とした静定ラーメンを学んだ後、実際の建築物の骨組はほとんど不静定構造物であるので、その応力の求め方について学んでいく。		
授業の概要	構造力学Ⅰに引き続き、トラスの応力、断面一次、断面二次モーメント、座屈やたわみについて学び、力のつりあい条件だけでなく、部材の変形などを考慮した不静定構造物の解き方について学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	図説 やさしい構造力学 (学芸出版社) 電卓		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	3ヒンジ系ラーメンの解き方		
第 2 週	トラスの解法 (1)		
第 3 週	トラスの解法 (2)		
第 4 週	断面一次モーメントと図心の計算		
第 5 週	断面二次モーメントの計算		
第 6 週	断面係数と断面二次半径の計算		
第 7 週	最大曲げ応力度、最大せん断応力度の計算		
第 8 週	座屈荷重の求め方		
第 9 週	不静定梁		
第10 週	不静定構造物 (たわみ角法)		
第11 週	不静定構造物 (固定モーメント法)		
第12 週	不静定構造物 (長方形ラーメンの曲げモーメントとせん断力)		
第13 週	不静定構造物 (概算法と応力の仮定)		
第14 週	練習問題		
第15 週	まとめ		

科目名	一般構造 I (必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築物の構造とはどういうものなのか。建築の各種構法や仕組みについて理解する。		
授業の概要	建築設計の基礎的知識である構法の構造原理や構造形式、構造材料などについて学び、木構造・鉄筋コンクリート構造などの各種構法の特性と適用について総合的に理解する。		
その他 (教科書・教材等)	基礎シリーズ 最新建築構造入門 (実教出版)		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 地盤</p> <p>第 2 週 基礎構造</p> <p>第 3 週 基礎構造</p> <p>第 4 週 木構造 (木構造の特徴・構造形式)</p> <p>第 5 週 木構造 (木構造の特徴・構造形式)</p> <p>第 6 週 木構造 (構造計画)</p> <p>第 7 週 木構造 (各部構造)</p> <p>第 8 週 木構造 (各部構造)</p> <p>第 9 週 木構造 (接合方法)</p> <p>第 10 週 木構造 (枠組壁工法)</p> <p>第 11 週 木構造 (枠組壁工法)</p> <p>第 12 週 鉄筋コンクリート構造 (鉄筋コンクリート構造の原理と特徴構造形式)</p> <p>第 13 週 鉄筋コンクリート構造 (コンクリート)</p> <p>第 14 週 鉄筋コンクリート構造 (各部設計)</p> <p>第 15 週 まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	一般構造Ⅱ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築物の構造とはどういうものなのか。建築の各種構法や仕組みについて理解する。		
授業の概要	建築設計の基礎的知識である構法の構造原理や構造形式、構造材料などについて学び、鉄骨構造・鉄骨鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック構造・プレストレストコンクリート構造などの各種構法の特性と適用について総合的に理解する。		
その他 (教科書・教材等)	基礎シリーズ 最新建築構造入門（実教出版）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	鉄骨構造	(鉄骨構造の特徴・構造形式)	
第 2 週	鉄骨構造	(鉄骨構造の特徴・構造形式)	
第 3 週	鉄骨構造	(金属材料)	
第 4 週	鉄骨構造	(各部構造)	
第 5 週	鉄骨構造	(各部構造)	
第 6 週	鉄骨構造	(部材設計)	
第 7 週	鉄骨構造	(接合法)	
第 8 週	補強コンクリートブロック造	(耐力壁)	
第 9 週	補強コンクリートブロック造	(耐力壁)	
第 10 週	補強コンクリートブロック造	(組積造)	
第 11 週	構造設計	(荷重・外力)	
第 12 週	構造設計	(荷重・外力)	
第 13 週	構造設計	(構造設計)	
第 14 週	構造設計	(構造計算)	
第 15 週	まとめ		

科目名	建築材料（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	一般に使用されている建築材料の性能・特性とその使われ方について理解し、実社会において必要不可欠な基礎知識を身につける。		
授業の概要	建築材料の分類や性能の概要と、コンクリート・木材・鉄鋼などの構造材料、木材・タイル・石材・石こう製品・塗料などの仕上げ材料等の材料特性とその用途について学び、建築の目的や構造に適合する材料について体系的に習得する。同時にPL法との関わりも学ぶ。また、人類の歴史が始まって以来、どのような材料を使って建		
その他 (教科書・教材等)	わかる建築学 建築材料（学芸出版社）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 建築材料（歴史・規格・環境・分類・性能）</p> <p>第 2 週 木材（日本建築と木材・種類・特徴・強度・構造・水分）</p> <p>第 3 週 木材（木取り・規格・等級・エンジニアリングウッド）</p> <p>第 4 週 コンクリート（コンクリートとは・セメント・骨材・水・混和材料・性質）</p> <p>第 5 週 コンクリート（調合設計・種類・製品）</p> <p>第 6 週 鋼材（鉄の歴史・鋼材とは・製鋼の工程・鋼材の特徴）</p> <p>第 7 週 鋼材（鉄鋼の種類・性質・腐食と防食・規格・非鉄金属）</p> <p>第 8 週 焼成品（焼成品は焼き物・タイル・れんが・瓦・衛生陶器・衛生陶器）</p> <p>第 9 週 ガラスと石（ガラスとは・ガラスの歴史）</p> <p>第 10 週 ガラスと石（石材とは・石材の特徴・石の分類）</p> <p>第 11 週 左官材料・ボード類（左官とは・左官の起源と定義）</p> <p>第 12 週 左官材料・ボード類（左官の特徴・近年の左官工事・左官の種類）</p> <p>第 13 週 その他の材料（プラスチック材料・塗料・接着剤）</p> <p>第 14 週 部位別・性能別材料（仕上材・防水・防火・耐火・断熱・防音・吸音）</p> <p>第 15 週 まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	建築概論(必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築全般について概括的に解説し、建築の概念や職能、建築体系を掴み、「建築とは何か」を理解させることを目的とする。 目標としては、総括的な基礎知識や設計デザインをアシストする技術と生産システムの現状や問題点を認識させる。		
授業の概要	建築の社会的意義や発展系譜、様式、構造技術、都市環境や地球環境との関係、企画・設計・施工・販売などの建築行為の全プロセス、建築士の社会的使命など、建築に係わる全般的な事柄について総合的に学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	徹底図解 建築のしくみ		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	建築をとりまく世界 (仕事の種類・産業)		
第 2 週	建築の基本事項 (敷地・配置・内外空間)		
第 3 週	建築の基本事項 (寸法計画・建築史)		
第 4 週	生活空間の建築計画 (プライベートスペース・パブリックスペース)		
第 5 週	生活空間の建築計画 (集合住宅の特徴・形式・平面計画)		
第 6 週	動く空間・公共性の高い空間の建築計画 (公共空間・オフィスビル・学校)		
第 7 週	建築を考える技術 (色彩計画・建築基準法の基礎知識)		
第 8 週	建築を考える技術 (安全性と品質確保・材料の使用法)		
第 9 週	建築の仕組みを考える技術 (各種構造・構造力学の基本的な考え方)		
第 10 週	建築の仕組みを考える技術 (建築設備の基本的な考え方・要点・計画)		
第 11 週	建築をつくる技術 (建築設計製図・建築CAD)		
第 12 週	建築をつくる技術 (建築施工・建設業法・施工計画・工程管理)		
第 13 週	環境と建築の快適性を考える技術 (パッシブソーラー・外部環境と緑化計画)		
第 14 週	環境と建築の快適性を考える技術 (リフォーム・資源のリサイクル)		
第 15 週	まとめ		
《後期》			

科目名	建築設計製図 I (必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築設計の基礎となる製図を行い、図面表現技法の基本を習得すると共に、設計製図の基礎知識と表現方法を習得する。		
授業の概要	実際の建築設計図（木造）の写図を行い、設計製図の基本技術を学ぶと共に、木造の2階建て住宅等の設計課題により、設計の基礎知識・設計手法・表現技法を習得する。（週2コマ授業）		
その他 (教科書・教材等)	定番 建築製図入門（彰国社） 製図道具		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 週 設計製図の基本演習及び写図 第 2 週 木造住宅の製図（配置図） 第 3 週 木造住宅の製図（平面図） 第 4 週 木造住宅の製図（立面図） 第 5 週 木造住宅の製図（断面図） 第 6 週 木造住宅の製図（矩計図） 第 7 週 木造住宅の製図（矩計図） 第 8 週 木造住宅の製図（部分詳細図） 第 9 週 木造住宅の製図（部分詳細図） 第 10 週 木造住宅の製図（天井伏図） 第 11 週 木造住宅の製図（展開図） 第 12 週 木造住宅の製図（基礎伏図） 第 13 週 木造住宅の製図（床伏図） 第 14 週 木造住宅の製図（小屋図） 第 15 週 木造住宅の製図（軸組図） 			
<p>《後期》</p>			

科目名	建築設計製図Ⅱ(必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築設計の基礎となる製図を行い、図面表現技法の基本を習得すると共に、設計製図の基礎知識と表現方法を習得する。		
授業の概要	木構造・鉄筋コンクリート構造毎に、実際に住宅の設計を行い、設計製図の基本技術を学ぶと共に、木造と鉄筋コンクリート構造の2階建て住宅等の設計課題により、設計の基礎知識・設計手法・表現技法を習得する。(週2コマ授業)		
その他 (教科書・教材等)	定番 建築製図入門 (彰国社) 製図道具		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	住宅の自由設計課題		
第 2 週	住宅の自由設計課題		
第 3 週	住宅の自由設計課題		
第 4 週	住宅の自由設計課題		
第 5 週	住宅の自由設計課題		
第 6 週	住宅の自由設計課題		
第 7 週	住宅の自由設計課題		
第 8 週	住宅の自由設計課題		
第 9 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (配置図)		
第 10 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (平面図)		
第 11 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (平面図)		
第 12 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (立面図)		
第 13 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (立面図)		
第 14 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (断面図)		
第 15 週	鉄筋コンクリート造集合住宅の製図 (断面図)		

科目名	CAD実習Ⅰ・Ⅱ（必修）	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前後期
授業の目的・目標	CADの基礎知識を学び、CADの操作技量及びCADによる設計法を身につける。当初はCADに慣れ親しむことに主眼を置き、後半では基礎的な作図能力を身につけさせるものとする。		
授業の概要	<p>現在最も多く普及しているJWCADを使って実際に設計することにより、実践的で即戦力となるCAD設計技術力を習得する。</p> <p>① JWCADソフトの操作習得 ② JWCADを用いた設計作図</p>		
その他 (教科書・教材等)	初めての建築CAD(学芸出版社)		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>● CADの基本的知識の修得</p> <p>第1週 JWCADのコマンドの操作 第2週 JWCADの操作習得（線、矩形の描き方） 第3週 JWCADの操作習得（円弧、複線の描き方） 第4週 JWCADの操作習得（連続線、多角形、曲線の描き方） 第5週 JWCADの操作習得（接線、中心線、ハッチの描き方） 第6週 JWCADの操作習得（文字、寸法、消去、伸縮、） 第7週 JWCADの操作習得（図形移動、複写、分割、レイヤ） 第9週 JWCADによる木造住宅の配置図の描き方 第10週 JWCADによる木造住宅の1・2階平面図の描き方 第11週 JWCADによる木造住宅の1・2階平面図の描き方 第12週 JWCADによる木造住宅の1・2階平面図の描き方 第13週 JWCADによる木造住宅の矩計図の描き方 第14週 JWCADによる木造住宅の矩計図の描き方 第15週 JWCADによる木造住宅の矩計図の描き方</p>			
<p>《後期》</p> <p>● CADの応用的技術の習得</p> <p>第16週 JWCADによるRC造の1・2階平面図の描き方 第17週 JWCADによるRC造の1・2階平面図の描き方 第18週 JWCADによるRC造の1・2階平面図の描き方 第19週 JWCADによるRC造の断面図の描き方 第20週 JWCADによるRC造の断面図の描き方 第21週 JWCADによるRC造の立面図の描き方 第22週 JWCADによるRC造の立面図の描き方 第23週 JWCADによるRC造の矩計図の描き方 第24週 JWCADによるRC造の矩計図の描き方 第25週 JWCADによるS造の1・2階平面図の描き方 第26週 JWCADによるS造の1・2階平面図の描き方 第27週 JWCADによるS造の断面図の描き方 第28週 JWCADによるS造の断面図の描き方 第29週 JWCADによるRC造の躯体図の描き方</p>			

科目名	インテリア基礎（選択）	単位数	4
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	インテリア業界で必要なインテリア計画や販売における基礎知識を習得し、2年次で選択するインテリアコーディネーターの資格試験合格のために科目につなげる。		
授業の概要	インテリアコーディネーター資格試験の一次試験対策として、設備・材料・家具・照明・環境工学といった多岐にわたる分野における基本知識を学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)	プリント、色鉛筆、製図道具 テキスト「建築スケッチパース基本の『き』」（株式会社エクスナレッジ）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	インテリアコーディネーターの職務・資格試験について		
第 2 週	住宅と社会		
第 3 週	コンサルティングと販売		
第 4 週	インテリアの歴史		
第 5 週	人間工学・寸法計画		
第 6 週	バリアフリー		
第 7 週	色彩と文様		
第 8 週	家具		
第 9 週	ウィンドウトリートメント		
第10 週	照明		
第11 週	設備		
第12 週	建具		
第13 週	その他のエレメント		
第14 週	論文・プレゼンテーション		
第15 週	総まとめ（試験）		

科目名	鋼構造 I・II	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	前後期
授業の目的・目標	鋼構造を中心とした仮設構造物造の設計		
授業の概要	教科書を中心に、基礎的な講義と演習で理解させる		
その他 (教科書・教材等)	絵とき 鋼構造の設計		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 鉄筋コンクリートの力学特性 第 2 週 鉄筋コンクリートの力学特性 第 3 週 鉄筋コンクリートの力学特性 第 4 週 鉄筋コンクリートの力学特性 第 5 週 配筋図の読み方 第 6 週 配筋図の読み方 第 7 週 配筋図の読み方 第 8 週 配筋図の読み方 第 9 週 鉄筋工事 第 10 週 鉄筋工事 第 11 週 鉄筋工事 第 12 週 設計手法 第 13 週 設計手法 第 14 週 設計手法</p>			
<p>《後期》</p> <p>第 1 週 長方形断面ばり 第 2 週 長方形断面ばり 第 3 週 長方形断面ばり 第 4 週 水路 第 5 週 T形断面はり 第 6 週 プレートガーダー橋 第 7 週 プレートガーダー橋 第 8 週 プレートガーダー橋 第 9 週 プレートガーダー橋 第 10 週 プレートガーダー橋 第 11 週 プレートガーダー橋 第 12 週 プレートガーダー橋 第 13 週 プレートガーダー橋 第 14 週 コンクリート橋</p>			

科目名	測量学	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	技術の進歩により、測量は建設工事だけではなく、現代社会のあらゆるところで活用されている。建設業においても、ICTの中で3次元測量が求められ、BIM、CIMへの活用につながっている。その仕組みと理論を解説し、測量に対する認識を深める。		
授業の概要	距離測量、水準測量、トランシット測量などの測量の基本的知識と技法を理解させる。また、基本的な測量器械・器具について、その構造・検査調整法および使用法を理解させる。		
その他 (教科書・教材等)	最新測量入門（実教出版） プリント、電卓		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 測量の概論</p> <p>第 2 週 距離測量</p> <p>第 3 週 距離測量</p> <p>第 4 週 角の測量</p> <p>第 5 週 角の測量</p> <p>第 6 週 高低測量</p> <p>第 7 週 高低測量</p> <p>第 8 週 地形測量</p> <p>第 9 週 地形測量</p> <p>第 10 週 写真測量</p> <p>第 11 週 写真測量</p> <p>第 12 週 GNSS測量</p> <p>第 13 週 GNSS測量</p> <p>第 14 週 GIS</p> <p>第 15 週 まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	測量実習（必修）	単位数	1
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	各種建築工事の計画・設計・施工などあらゆる場面に測量が必要である。実習により基本的な測量技術を習得し応用力が発揮できる実力を見に付ける。		
授業の概要	平板、レベル、トランシットにより、実際に角測量、高低測量、面積・体積の計算を行い、基本的な測量技術を習得する。また、測量器械・器具にて、そのメンテナンスや検査調整法を理解させる。		
その他 (教科書・教材等)	野帳・電卓・ペン・プリント		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 回	水準測量		
第 2 回	水準測量		
第 3 回	水準測量		
第 4 回	距離測量		
第 5 回	距離測量		
第 6 回	角の測量		
第 7 回	角の測量		
第 8 回	角の測量		
第 9 回	角の測量		
第 10 回	平板による骨組測量		
第 11 回	平板による骨組測量		
第 12 回	平板による骨組測量		
第 13 回	光波トランシット測量		
第 14 回	光波トランシット測量		
第 15 回	光波トランシット測量		

科目名	基礎造形（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前期
授業の目的・目標	建築デザインに必要な基礎的造形力と美的センス・感性を表現する力と考え方を身につける。		
授業の概要	建築デザインの基本的な考え方と表現力を習得する。デッサン、粘土、紙、透視図などによる造形的トレーニングにより、空間を決定付けるデザイン要素について理解し、明確なイメージを描けるように色・形・質・手法・構成という要素を美しく組み合わせる能力を習得する。 (週2コマ授業)		
その他 (教科書・教材等)	ラクラク建築模型マニュアル(エクスナレッジ) プリント・模型材料・工作道具等 (模型材料等実費¥1,000一程度徴収する)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	オリエンテーション (パース理論・模型の作り方)		
第 2 週	内観パース	第 1 2 週	住宅模型
第 3 週	内観パース	第 1 3 週	住宅模型
第 4 週	内観パース	第 1 4 週	住宅模型
第 5 週	外観パース	第 1 5 週	住宅模型
第 6 週	外観パース		
第 7 週	外観パース		
第 8 週	外観パース		
第 9 週	住宅模型		
第 10 週	住宅模型		
第 11 週	住宅模型		
《後期》			

科目名	応用造形（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築におけるプレゼンテーションの技術の一環として行う。 基礎造形で行った模型制作を発展させより高度な技術の習得を目指す。		
授業の概要	基礎造形で習得した技法を用い、設計製図の授業で取組む設計課題の模型を作成することによりプレゼンテーションを行う。建築デザインの基本的な考え方と表現力を習得する。デッサン、粘土を使う（週2コマ授業）		
その他 （教科書・教材等）	ラクラク建築模型マニュアル(エクスナレッジ) プリント・模型材料・工作道具等 （模型材料等実費¥1,000一程度徴収する）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》 後期の15週を使い行う。 規定期間内で作品を完成させ設計製図で作成した図面とともにプレゼンテーションを行う			

科目名	火薬学	単位	5
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2（土木系選択）	学期	前後期
授業の目的・目標	爆薬・火薬は建設工事において、各所で使われている。この火薬類の危険性を十分に認識して、安全かつ経済的に使用する方法を学ぶ。尚、この講義は夏季休暇中にも集中講義を行なう。またこの講義取得者は、甲種火薬類取扱保安責任者試験（国家試験）の半分免除規定を適用される。		
授業の概要	教科書及びプリント		
その他 （教科書・教材等）	一般火薬学（日本火薬工業会）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1回～第2回 概論 火薬の歴史、火薬の定義</p> <p>第3回～第5回 火薬の分類、性質</p> <p>第6回～第7回 爆薬・硝酸エステル系爆薬の分類、性質</p> <p>第8回～第9回 火工品について</p> <p>第10回～第11回 火薬類の組成</p> <p>第12回～第13回 火薬類の製法</p> <p>第14回～第15回 火薬類の試験法</p> <p>第16回～第18回 発破の基礎 ハウザーの公式及び発破理論</p>			
<p>《後期》</p> <p>第19回～第20回 発破の技術1 ベンチ発破・盤打ち発破</p> <p>第21回～第22回 発破の技術2 トンネル発破</p> <p>第23回～第24回 発破の技術3 制御発破・水中発破</p> <p>第25回～第27回 発破の影響 発破振動・発破音について</p> <p>第28回～第30回 発破の影響 周辺住民・環境に与える影響</p> <p>第31回～第33回 火薬取締法の解説</p> <p>第34回～第36回 火薬取締法施行令・施行規則の解説</p>			

科目名	鉄筋コンクリートⅠ・Ⅱ	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2（土木系選択）	学期	前後期
授業の目的・目標	土木建築構造物において、鉄筋コンクリート構造は基本中の基本構造である。 鉄筋コンクリート構造の歴史と原理そして演習を通じ、シビルエンジニアとしての基本的技術対応能力を養うことを目的とする。		
授業の概要	教科書を中心に、基礎的な講義と演習で理解させる		
その他 (教科書・教材等)	絵とき 鉄筋コンクリートの設計 (オーム社)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	鉄筋コンクリートの歴史と原理		
第 2 週	鉄筋コンクリートの歴史と原理		
第 3 週	設計法の変遷		
第 4 週	設計法の変遷		
第 5 週	現行設計法		
第 6 週	現行設計法		
第 7 週	現行設計法		
第 8 週	現行設計法		
第 9 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第10 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第11 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第12 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第13 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第14 週	演習		
第15 週	まとめ		
《後期》			
第 1 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 2 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 3 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 4 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 5 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 6 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 7 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 8 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 9 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第10 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第11 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第12 週	変状と対策		
第13 週	変状と対策		
第14 週	変状と対策		

科目名	建築演習（選択）	単位数	4
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前・後期
授業の目的・目標	2級建築施工管理技士学科試験の合格を目的とする。		
授業の概要	計画、構造、施工、力学、法規の各項目ごとによる説明を行い練習問題と過去問をくり返し習得させる。		
その他 (教科書・教材等)	2級建築施工管理技士テキスト（実教出版）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 計画原論 第 2 週 計画原論 第 3 週 計画原論 第 4 週 構造力学 第 5 週 一般構造 第 6 週 一般構造 第 7 週 建築材料 第 8 週 建築材料 第 9 週 建築材料 第 10 週 躯体 第 11 週 躯体 第 12 週 仕上げ 第 13 週 仕上げ 第 14 週 仕上げ</p>			
<p>《後期》</p> <p>第 1 週 電気設備 第 2 週 機械設備 第 3 週 外構工事 第 4 週 関連法規 第 5 週 関連法規 第 6 週 模擬テスト 第 7 週 模擬テスト 第 8 週 模擬テスト</p>			

科目名	土木演習（選択）	単位数	4
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	前・後期
授業の目的・目標	土木技術者として一般的、専門的知識の復活と2級土木施工管理試験（国家試験）の合格を目指す。		
授業の概要	講義および問題集による演習		
その他 （教科書・教材等）	2級土木施工技術者試験テキスト 問題集は別途作成		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	土質・土工・コンクリート工の復習整理・演習		
第 2 週	土質・土工・コンクリート工の復習整理・演習		
第 3 週	土質・土工・コンクリート工の復習整理・演習		
第 4 週	基礎工・鋼構造・RCの復習整理・演習		
第 5 週	基礎工・鋼構造・RCの復習整理・演習		
第 6 週	基礎工・鋼構造・RCの復習整理・演習		
第 7 週	地下構造物・上下水道の復習整理、演習		
第 8 週	地下構造物・上下水道の復習整理、演習		
第 9 週	地下構造物・上下水道の復習整理、演習		
第 10 週	測量・電気・設計図書復習整理、演習		
第 11 週	測量・電気・設計図書復習整理、演習		
第 12 週	測量・電気・設計図書復習整理、演習		
第 13 週	河川・港湾・道路の復習整理・演習		
第 14 週	河川・港湾・道路の復習整理・演習		
《後期》			
第 1 週	施工計画・設計機械の復習整理・演習		
第 2 週	施工計画・設計機械の復習整理・演習		
第 3 週	施工計画・設計機械の復習整理・演習		
第 4 週	工程管理・品質管理の復習整理・演習		
第 5 週	工程管理・品質管理の復習整理・演習		
第 6 週	工程管理・品質管理の復習整理・演習		
第 7 週	総合演習		
第 8 週	総合演習		
第 9 週	総合演習		
第 10 週	総合演習		
第 11 週	総合演習		
第 12 週	総合演習		
第 13 週	総合演習		
第 14 週	総合演習		
第 15 週	総合演習		

科目名	測量演習Ⅰ・Ⅱ	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	夏・春集中
授業の目的・目標	高校数学や地理を活用して、測量の解説を行い、練習問題を解く。また測量とコンピュータの関係を説明し、理解させる。測量士補受験希望者は必ず受講すること。		
授業の概要	教科書及びプリントを使用して、演習形式の講義をする。夏休み中に、4日間(各日4限)集中講座として行う。		
その他 (教科書・教材等)	測量士補過去問マスター (東京法経学院)		
授業内容・授業計画			
《夏期集中》 第1回 測量の基本事項 ↓ 第2回 測量法規 ↓ 第3回 トラバース測量 ↓ 第4回 レベル測量 ↓ 第5回 トータルステーション・GPS			
《夏期集中》 第6回 地形測量・GPS ↓ 第7回 路線測量 ↓ 第8回 写真測量 ↓ 第9回 デジタルマッピング・GIS ↓ 第10回 応用測量			

科目名	土木概論	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	前期
授業の目的・目標	1. 講義テーマ ・土木工学とは何か ・土木の歴史 ・構造物と材料 ・材料と力学の関係 ・有限要素法 2. 目標		
授業の概要	1. 講義内容の説明 2. 講義 3. 演習		
その他 (教科書・教材等)	教科書：わかるメンテナンス (学芸出版)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	土木工学とは何か		
第 2 週	土木工学の分野		
第 3 週	社会資本		
第 4 週	土木の歴史		
第 5 週	歴史に見る土木遺産		
第 6 週	古代ローマの道		
第 7 週	構造物と材料		
第 8 週	木材、石、レンガ		
第 9 週	コンクリート		
第 10 週	鋼材		
第 11 週	鋼材		
第 12 週	弾性力学		
第 13 週	材料と力学の関係		
第 14 週	塑性力学		

科目名	水理学	単位	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2（土木系選択）	学期	前期
授業の目的・目標	1. 講義テーマ ・水の物理法則 ・浮力と安定 ・管路の流れ ・開水路の流れ 2. 目標		
授業の概要	1. 講義内容の説明 2. 講義 3. 演習		
その他 (教科書・教材等)	教科書:水理学入門(実教出版) 参考書:水理公式集、岩佐義朗著「水理学」		
授業内容・授業計画			
《前期》 1 静水圧 2 水の流れ 3 管水路 4 開水路 5 オリフィス・ゲート・せき			
《後期》			

科目名	施工管理	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年（土木系選択）	学期	前期
授業の目的・目標	<p>工事における管理は、工程・品質・安全の3分野に大別される。本講座では実際の工事管理経験を踏まえ、より実践的な施工管理技術を学ぶ</p>		
授業の概要	<p>教科書および実例をもとに工事における施工管理の手法を学ぶ。</p>		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 2 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 3 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 4 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 5 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 6 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 7 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 8 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第 9 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第 10 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第 11 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第 12 週 安全管理</p> <p>第 13 週 安全管理</p> <p>第 14 週 安全管理</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	河川工学	単位	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年（土木系選択）	学期	後期
授業の目的・目標	<p>河川は市民生活にどのような影響があるのかを考え、土木工学的にはどのように接すればよいかを考える。</p> <p>1. 講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川の機能 ・ 洪水災害の要因 ・ 洪水対策 ・ 土砂災害の要因 ・ 砂防対策 		
授業の概要	<p>1. 講義内容の説明</p> <p>2. 講義</p> <p>3. 演習</p>		
その他 (教科書・教材等)	教科書：河川工学（コロナ社）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》 1 川と河川工学 2 河川の地形学 3 河川の水文学 4 河川の水理学 5 流砂と河床変動 6 河川計画			

科目名	生態学・ビオトープ論	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1(土木系選択)	学期	前後期
授業の目的・目標	地球の環境の生態系を構成する生物の一員としてのヒトの存在について、他の生態系のメンバーとの共生・共存を図るための手段を模索することを課題とする。		
授業の概要	学外実習を中心に、特別天然記念物オオサンショウウオの調査・保護活動を通して、生物への関心と理解を持たせ、学外で生態調査の一端を体験する。月1回土曜日に学外で集中授業を行なう。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 回	河川生態系調査		
第 2 回	河川生態系調査		
第 3 回	河川生態系調査		
第 4 回	河川生態系調査		
第 5 回	河川生態系調査		
第 6 回	オオサンショウウオの調査・保護活動		
第 7 回	オオサンショウウオの調査・保護活動		
第 8 回	オオサンショウウオの調査・保護活動		
第 9 回	オオサンショウウオの調査・保護活動		
第 10 回	オオサンショウウオの調査・保護活動		
第 11 回	学外生態系実習		
第 12 回	学外生態系実習		
第 13 回	学外生態系実習		
第 14 回	学外生態系実習		
第 15 回	まとめ		
《後期》			
第 1 回	環境の保全と復元への努力		
第 2 回	環境の保全と復元への努力		
第 3 回	環境の保全と復元への努力		
第 4 回	環境の保全と復元への努力		
第 5 回	環境の保全と復元への努力		
第 6 回	人工のビオトープ・自然のビオトープ		
第 7 回	人工のビオトープ・自然のビオトープ		
第 8 回	人工のビオトープ・自然のビオトープ		
第 9 回	人工のビオトープ・自然のビオトープ		
第 10 回	人工のビオトープ・自然のビオトープ		
第 11 回	地球規模での自然環境の保全		
第 12 回	地球規模での自然環境の保全		
第 13 回	地球規模での自然環境の保全		
第 14 回	地球規模での自然環境の保全		

科目名	建設法規	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	前期
授業の目的・目標	現在の建設工事を進める上では様々な法律がある。その法規を理解するとともに実例で考える。また、これからの重要問題になるであろう環境法規についても解説する。		
授業の概要	教科書および社会実例をもとに解説する。		
その他 (教科書・教材等)	参考書：土木施工管理技術テキスト法規編（地域開発研究所） 環境法入門（有斐閣）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第1週	労働関係法令、建設業関係法令		
第2週	労働関係法令、建設業関係法令		
第3週	労働関係法令、建設業関係法令		
第4週	労働関係法令、建設業関係法令		
第5週	労働関係法令、建設業関係法令		
第6週	労働関係法令、建設業関係法令		
第7週	道路交通関係法令、建築基準法		
第8週	道路交通関係法令、建築基準法		
第9週	道路交通関係法令、建築基準法		
第10週	環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令		
第11週	環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令		
第12週	環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令		
第13週	環境関連法規		
第14週	環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令		
第15週	まとめ		
《後期》			

科目名	特別講座 I (必修)	単位数	1
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	通年
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外の課外活動により、建築に関わる総合学習を行う ・学校行事（球技大会等）を通して、協調性などを養う 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの学校行事 ・学外などで講演会や見学会など課外授業 ・行事を行う際の準備やアンケート、必要書類の作成などの学生生活に必要なことを全般的に行う 		
その他 (教科書・教材等)	配布資料		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・インターンシップ開講式 ・ウエルカムパーティー ・春季球技大会 ・バス研修 ・全校集会 他 			
<p>《後期》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会 ・インターンシップ閉開講式 ・秋季球技大会予定 ・インターンシップ閉講式 他 			

科目名	施工インターンシップ (夏期A)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	夏期
授業の目的・目標	現場管理および施工業務全般についての専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と意識を高める。		
授業の概要	①協力企業の施工現場で施工担当者から直接的指導を受け、実技研修により技術のリテラシー（現場・現実・現物）を知る。 ②定例実習の他、資材センター・材料試験所等の校外学習を行う。 ③現場入場して事前講習の後に実習を行う。毎日、企業担当者に研修日誌のチェックを受け、最終的に報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)	毎回行う作業に応じ施工会社に資料を提供して頂く。		
授業内容・授業計画			
《夏期集中》 第 1回 事前学習 第 2回 実習1日目－開講式（午前）、RCインターンシップ（午後） 第 3回 実習2日目－RCインターンシップ 第 4回 実習3日目－RCインターンシップ 第 5回 実習4日目－施設見学会 第 6回 実習5日目－RCインターンシップ 第 7回 実習6日目－RCインターンシップ（午前）、安全大会（午後） 第 8回 実習6日目－RCインターンシップ（午前）、閉講式（午後）			
《後期》			

科目名	施工インターンシップ (夏期B)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	夏期
授業の目的・目標	森林・木材・木造建築を実践的に学ぶ。		
授業の概要	<p>森林・作業場を拠点に木材を利用した建築物の建て方・加工などを学ぶ。</p> <p>9月中旬～下旬の1週間を合宿形式にて行う予定</p> <p>2005年度・2007年度 神河町の小学校で合宿―地元の木材を使いバス停を制作</p> <p>2006年度 神河町の小学校で合宿―間伐材を有効利用してバス停花壇製作 誘導看板塔を地元の間伐材を使い伝統的木造技術により建設。</p>		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《夏期集中》			
<p>第 1回 事前学習</p> <p>第 2回 実習 1日目―開講式、講義（町概要、林業）、町内見学、林業体験（実習）</p> <p>第 3回 実習 2日目―木造インターンシップ</p> <p>第 4回 実習 3日目―木造インターンシップ・地域交流会</p> <p>第 5回 実習 4日目―木造インターンシップ・閉講式</p> <p>第 6回 事後学習</p>			
《後期》			

科目名	設計インターンシップ (夏期A) (選択)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	夏期
授業の目的・目標	設計監理・設計業務全般並びについての 専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と知識を高める。		
授業の概要	協力企業の事務所において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《夏期集中講座》</p> <p>兵庫県建築設計監理協会主催 「ワークスタディ」 期間：前期試験終了後から9月末日までの10日間～12日間（休日を除く） ※実習内容・実習時期については、受入れ事務所により違いがあります。</p>			
《後期》			

科目名	設計インターンシップ (夏期B) (選択)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	夏期
授業の目的・目標	設計監理・設計業務全般並びについての 専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と知識を高める。		
授業の概要	協力企業の事務所において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《夏期集中講座》</p> <p>兵庫県建築設計事務所協会姫路支部主催 「ワークスタディ」 期間：前期試験終了後から9月末日までの10日間～12日間（休日を除く） ※実習内容・実習時期については、受入れ事務所により違いがあります。</p>			
《後期》			

科目名	設計インターンシップ (春季)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	春期
授業の目的・目標	設計監理・設計業務全般並びについての 専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と知識を高める。		
授業の概要	協力企業の事務所において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《前期》			
《春期集中講座》			
<p>兵庫県建築設計事務所協会姫路支部主催 「ワークスタディ」 期間：後期試験終了後から3月末日までの10日間～12日間（休日を除く） ※実習内容・実習時期については、受入れ事務所により違いがあります。</p>			

科目名	施工インターンシップ（造園）（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	後期
授業の目的・目標	姫路造園建設業協会の会員企業において企業の担当者から直接教えを受け、実際の作業を行う。		
授業の概要	協力企業の事務所、現場において実習を行う。研修日誌・報告書を作成する。 協力協会：姫路造園建設業協会 期間：1週間以上 学校に申込制で受付後、実施企業を紹介する 実習内容については、企業等の事情により変更の可能性がある。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《前期》			
《春期集中》			
第1日目	実習説明・書注意、庭園実習		
第2日目	庭園実習		
第3日目	↓		
第4日目	↓		
第5日目	↓		
第6日目	庭園実習・庭園見学		

科目名	施工インターンシップ I (選択)	単位数	1又は2 (日数による)
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年	学期	通年
授業の目的・目標	新規に企画されたインターンシップや、各自で探してきた現場・設計事務所において必要日数間（概ね1週間～2週間）実習を行う。専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と意識を高める。また、複数回参加したインターンシップも、この科目とする。		
授業の概要	協力企業の事務所、現場において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。 インターンシップ I は、7日以上の実習期間 インターンシップ II は、14日以上の実習期間 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、そ		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《通年期間中》			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 協力企業で担当者から直接的指導を受け、実技研修により技術のリテラシー（現場・現実・現物）を知る。 2) 実習後、企業担当者に研修日誌のチェックを受け、最終的に報告書を作成・提出する。 3) 7日以上の実習で1単位、14日以上参加で2単位とする。 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、その単位数に準ずる。 			

科目名	設計・施工インターンシップ I、II	単位数	1又は2 (日数による)
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	通年
授業の目的・目標	新規に企画されたインターンシップや、各自で探してきた現場・設計事務所において必要日数間（概ね1週間～2週間）実習を行う。専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と意識を高める。また、複数回参加したインターンシップも、この科目とする。		
授業の概要	協力企業の事務所、現場において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。 インターンシップ I は、7日以上の実習期間 インターンシップ II は、14日以上の実習期間 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、そのカリキュラムに準ずる。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
《通年期間中》			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 協力企業で担当者から直接的指導を受け、実技研修により技術のリテラシー（現場・現実・現物）を知る。 2) 実習後、企業担当者に研修日誌のチェックを受け、最終的に報告書を作成・提出する。 3) 7日以上の実習で1単位、14日以上参加で2単位とする。 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、その単位数に準ずる。 			

科目名	施工実習（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科・1年	学期	後期
授業の目的・目標	建築施工・測量学などで学習したことを実習により確認するとともに、施工現場における即戦力を養う。		
授業の概要	規矩術、施工図の描き方など実務処理能力を養う。 木造工事实習で実技練習を行う。		
その他 (教科書・教材等)	図面 プリント 建築工具		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	建築工具の取り扱い方		
第 2 週	墨出し		
第 3 週	差し金・巻尺・下げ振りを用いての矩の出し方		
第 4 週	木造軸組（原寸大）組立て実習		
第 5 週	↓		
第 6 週	木工実習（仕口・継手・ほぞなど）		
第 7 週	↓		
第 8 週	↓		
第 9 週	↓		
第 10 週	↓		
第 11 週	↓		
第 12 週	↓		
第 13 週	↓		
第 14 週	↓		
第 15 週	↓		

2023 年度

シラバス

環境建設工学科

2 年



科目名	環境工学（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	建築物を取り巻く自然環境と都市環境に関する基本的な知識とその中で快適な室内環境を創り出すための計画理論について学ぶ。		
授業の概要	換気、音響、日照・日射、採光・人工照明、色彩、冷暖房などの建築環境要素について、それぞれの特性と計算式により、快適な室内環境を作るための計画手法を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	初めての建築環境（学芸出版社）		
授業内容・授業計画			
《後期》 第 1 週 気象 第 2 週 気象 第 3 週 温熱要素 第 4 週 温熱要素 第 5 週 熱 第 6 週 熱 第 7 週 日照 第 8 週 日照 第 9 週 日射 第 10 週 日射 第 11 週 省エネルギー関係 第 12 週 色 第 13 週 音 第 14 週 その他融合 第 15 週 まとめ			

科目名	建築設備（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	建築に付随する一般的な設備について概論を学ぶと共に、建築設備計画に必要な知識を習得する。		
授業の概要	給排水設備・衛生設備・空気調和設備・電気設備などについて基本的事項を理解すると共に、各設備機器の機能、性能、用途について学び、設備計画に必要な知識を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	絵とき建築設備（オーム社）		
授業内容・授業計画			
《前期》 第 1 週 給水設備 第 2 週 給水設備 第 3 週 排水設備 第 4 週 排水設備 第 5 週 排水設備 第 6 週 その他水関係 第 7 週 浄化槽 第 8 週 雨水関係 第 9 週 消防設備 第 10 週 冷房設備 第 11 週 暖房設備 第 12 週 空調設備 第 13 週 電気設備 第 14 週 電気設備 第 15 週 まとめ			
《後期》			

科目名	都市計画Ⅰ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	<p>テーマ：本講義は、建築・都市計画などの実務に携わる際に必要な知識を取得する。</p> <p>目標：①都市の発展、衰退、再生の要因の理解 ②都市計画手法の理解（コルビジエ・Eハワード・C. A. ペリー等の手 ③住宅地計画の理解（ニュータウン・近隣分区・公園） ④都市施設の理解（上下水道・ごみ処理・エネルギー施設等） ⑤環境問題の理解 ⑥関連制度の理解</p>		
授業の概要	<p>古代から現在までの日本と西洋の都市について、その建築様式と都市計画を学び、各時代の建築特性をその時代特性と関連させながら建築・都市デザインと技術の発展過程を理解するとともに、近代・現代都市など有名都市計画家・建築家などの手法・構想の理解する。 また 市民が健康で快適に生活できる都市をつくるには、生活に必要な都市施設と守るべきルールがあり都市施設計画・関連制度・環境問題等の知識を深める</p>		
その他 （教科書・教材等）	「都市計画」（森北出版株式会社） 配布資料		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	都市計画概要		
第 2 週	都市の発展、衰退、再生（古典都市問題）		
第 3 週	都市の発展、衰退、再生（現代都市問題）		
第 4 週	都市の発展、衰退、再生（政令指定都市・中核都市・特例市等）		
第 5 週	都市計画の手法（Eハワードの手法を学ぶ 田園都市・レッチワース等）		
第 6 週	都市計画の手法（ル・コルビュジエの手法を学ぶ 輝く都市・他、実例）		
第 7 週	都市計画の手法（C. A.ペリーの手法を学ぶ 近隣住区等）		
第 8 週	都市計画の手法（ラドバーンとボンエルフ）		
第 9 週	都市計画の手法（トランジットモール・パークアンドライト）		
第 10 週	都市計画の手法（その他の都市計画家・都市理論研究者と主な提案）		
第 11 週	住宅地計画（海外のニュータウン）		
第 12 週	住宅地計画（日本のニュータウン）		
第 13 週	住宅地計画（近隣住区）		
第 14 週	住宅地計画（都市公園）		
第 15 週	まとめ		
《後期》			

科目名	都市計画Ⅱ（必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	<p>テーマ：本講義は、建築・都市計画などの実務に携わる際に必要な知識を取得する。</p> <p>目標：①都市の発展、衰退、再生の要因の理解 ②都市計画手法の理解（コルビジエ・Eハワード・C.A.ペリー等の手 ③住宅地計画の理解（ニュータウン・近隣分区・公園） ④都市施設の理解（上下水道・ごみ処理・エネルギー施設等） ⑤環境問題の理解 ⑥関連制度の理解</p>		
授業の概要	<p>古代から現在までの日本と西洋の都市について、その建築様式と都市計画を学び、各時代の建築特性をその時代特性と関連させながら建築・都市デザインと技術の発展過程を理解すると共に、近代・現代都市など有名都市計画家・建築家などの手法・構想の理解する。 また 市民が健康で快適に生活できる都市をつくるには、生活に必要な都市施設と守るべきルールがあり都市施設計画・関連制度・環境問題等の知識を深める</p>		
その他 (教科書・教材等)	<p>「都市計画」（森北出版株式会社） 配布資料</p>		
授業内容・授業計画			
<p>《後期》</p> <p>第 1 週 都市施設の計画（道路・鉄道・駐車場） 第 2 週 都市施設の計画（上下水道施設Ⅰ） 第 3 週 都市施設の計画（上下水道施設Ⅱ） 第 4 週 都市施設の計画（電気・ガス供給施設） 第 5 週 都市施設の計画（学校・図書館・研究施設その他の教育文化施設） 第 6 週 都市施設の計画（ごみ処理施設・汚物処理施設） 第 7 週 都市施設の計画（市場・と畜場・火葬場・消火施設） 第 8 週 都市施設の計画（情報通信システム・インテリジェントビル・SOHO） 第 9 週 環境問題（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染） 第 10 週 環境問題（騒音・振動・地盤沈下・悪臭） 第 11 週 関連制度（建築基準法—日影規制・北側斜線制限） 第 12 週 関連制度（都市計画法—都市計画区域と区域区分制度等） 第 13 週 関連制度（開発行為・防災計画） 第 14 週 都市景観整備と町並み保存 第 15 週 まとめ</p>			

科目名	建築史 I・II (必修)	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前後期
授業の目的・目標	建築の歴史を学ぶことにより建築の基礎知識を養い、構法や材料などの発展してきた過程をも理解する。		
授業の概要	2級建築士出題範囲を中心に、古代から現在までの日本と西洋の建築について、その建築様式と技術を学ぶ。各時代の建築特性をその時代特性と関連させながら建築デザインと技術の発展過程を理解する。近代、現代建築物など有名建築物と建築家の功績も基礎知識として身につける。		
その他 (教科書・教材等)	コンパクト版 建築史		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第1週	日本建築史	竪穴式住居と高床式建物	古代の神社建築 (伊勢神宮 春日大社 住吉大社等)
第2週	日本建築史	仏教建築の伝来 (法隆寺他)	古代の都市計画と住居 (寝殿造りの発生)
第3週	日本建築史	浄土教の建築 (平等院鳳凰堂他)	中世の仏教建築 中世の神社建築
第4週	日本建築史	中世の住宅・書院造 (金閣寺等)	城郭建築 (姫路城等) 茶室と数寄屋建築
第5週	日本建築史	近世の寺社建築	民家 (農家・町家)
第6週	日本建築史	エジプト建築	オリエント建築
第7週	西洋建築史	ギリシャ建築	ローマ建築
第8週	西洋建築史	初期キリスト教建築	ビザンティン建築
第9週	西洋建築史	まとめ	
第10週	西洋建築史	まとめ	
第11週	西洋建築史	まとめ	
第12週	西洋建築史	まとめ	
第13週	西洋建築史	まとめ	
第14週	西洋建築史	まとめ	
第15週	西洋建築史	まとめ	
《後期》			
第1週	西洋建築史	イスラム建築	ロマネスク建築
第2週	西洋建築史	ゴシック建築 (パリ大聖堂等)	ルネサンス建築 (サンピエトロ大聖堂他)
第3週	西洋建築史	バロック建築 (ベルサイユ宮殿等)	リバイバル建築 (英国国会議事堂)
第4週	西洋建築史	アーツアンドクラフツ運動・アールヌーヴォー	鉄筋コンクリート造建築の登場
第5週	西洋建築史	モダニズム建築 (ハウハウス・4大巨匠)	ポスト・モダニズム建築
第6週	近代建築史	日本人建築家の誕生 (辰野金吾 東京駅等)	都市計画及び構造技術 (同潤会アパート)
第7週	近代建築史	モダニズム建築 (アントニン・レイモント他)	戦災復興から高度成長期にかけて
第8週	近代建築史	まとめ	
第9週	近代建築史	まとめ	
第10週	近代建築史	まとめ	
第11週	近代建築史	まとめ	
第12週	近代建築史	まとめ	
第13週	近代建築史	まとめ	
第14週	近代建築史	まとめ	
第15週	近代建築史	まとめ	

科目名	造園学（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	造園の歴史・造園材料・造園施工技術を理解させ習得する。 2級造園施工管理技術検定の試験対策の基礎講座とし、造園の設計書が理解できることを目標とする。		
授業の概要	2級造園施工管理技術検定の受験のための演習も含めた講義とする。		
その他 (教科書・教材等)	造園施工必携〔改定新版〕（社）日本造園組合連合会 参考書：造園技術ハンドブック、庭のデザイン実例集		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	授業説明・造園について		
第 2 週	【造園の歴史】・日本造園の歴史と様式の変遷		
第 3 週	【造園の歴史】・海外造園の歴史と様式		
第 4 週	【造園の歴史】・庭園・公園の役割		
第 5 週	【造園の材料】・植物材料		
第 6 週	【造園の材料】・石材と石造品		
第 7 週	【造園の材料】・木材と竹材		
第 8 週	【造園の材料】・レンガとタイル		
第 9 週	【造園施工】・植栽工事		
第 10 週	【造園施工】・土工事		
第 11 週	【造園施工】・添景と水景工事		
第 12 週	【造園施工】・造園付帯工事		
第 13 週	【造園施工】・公園施設工事		
第 14 週	【造園施工】 ↓		
第 15 週	まとめ		

科目名	建築設計製図Ⅲ(必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	設計課題により具体的な建築設計製図を行い、設計思考プロセスと設計デザイン能力を習得する。鉄骨造、鉄筋コンクリート造を中心に特に図面を読み取る力、作図設計能力をバランスよく身につけさせる。		
授業の概要	鉄筋コンクリート造、鉄骨造の集合住宅や学校、コミュニティ施設などの公共施設を中心に写図し、複雑で多様な機能性や周辺地域への対応、デザインコンセプトの立て方など、設計思考プロセスと設計デザイン力などの設計製図に必要な技術を習得する。(週2コマ授業)		
その他 (教科書・教材等)	新しい建築の製図(学芸出版社)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週 鉄筋コンクリート造の製図			
第 2 週 鉄筋コンクリート造の製図			
第 3 週 鉄筋コンクリート造の製図			
第 4 週 鉄筋コンクリート造の製図			
第 5 週 鉄筋コンクリート造の製図			
第 6 週 鉄骨造の製図			
第 7 週 鉄骨造の製図			
第 8 週 鉄骨造の製図			
第 9 週 鉄骨造の製図			
第10週 鉄骨造の製図			
第11週 集合住宅の設計			
第12週 集合住宅の設計			
第13週 集合住宅の設計			
第14週 集合住宅の設計			
第15週 集合住宅の設計			
《後期》			

科目名	建築設計製図Ⅳ(必修)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	設計課題により具体的な建築設計製図を行い、設計思考プロセスと設計デザイン能力を習得する。鉄骨造、鉄筋コンクリート造を中心に特に図面を読み取る力、作図設計能力をバランスよく身につけさせる。		
授業の概要	集合住宅や学校、コミュニティ施設などの公共施設を中心に設計製図し、複雑で多様な機能性や周辺地域への対応、デザインコンセプトの立て方など、設計思考プロセスと設計デザイン力などの設計製図に必要な技術を習得する。課題は、総合的な設計能力を養う共通課題と総合建築系選択課題、コンペ課題などにより実施する。(週2コマ授業)		
その他 (教科書・教材等)	新しい建築の製図(学芸出版社)		
授業内容・授業計画			
《後期》			
第1週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第2週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第3週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第4週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第5週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第6週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第7週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第8週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第9週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第10週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第11週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第12週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第13週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第14週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	
第15週	自由設計	(公共建築物又は特殊建築物)	

科目名	インテリアビジネス（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	インテリア計画をプランニングし作図、商品見本を使用してのプレゼンテーションボードの作成。		
授業の概要	住宅構造、インテリア構成材、環境工学、空間計画、法規といった多岐にわたる分野をインテリアに関連する部分に特化した技術をマイホームデザイナーを用いて、家具配置、インテリアコーディネーションを計画、作図し習得する。		
その他 (教科書・教材等)	マイホームデザイナー（PCソフト） 商品カタログ		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	住宅のプランニング		
第 2 週	窓のプランニング		
第 3 週	リビングのプランニング		
第 4 週	キッチンのプランニング		
第 5 週	寝室等個室のプランニング		
第 6 週	和室のプランニング		
第 7 週	住宅完成		
第 8 週	仕上げ材等細部のプランニング		
第 9 週	〃		
第 10 週	庭のプランニング		
第 11 週	仕上げ表完成		
第 12 週	プレゼンテーションボードの作成		
第 13 週	〃		
第 14 週	〃		
第 15 週	プレゼンテーション		
《後期》			

科目名	インテリアエレメント（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	インテリア業界で必要なインテリア計画における基礎知識を習得する。		
授業の概要	設備、材料、家具、照明、計画、環境工学といった多岐にわたる分野におけるインテリア関連知識を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	テキスト「初めてのインテリアコーディネーション」		
授業内容・授業計画			
《前期》 第 1 週 インテリアについて 第 2 週 色彩 第 3 週 材料 第 4 週 材料 第 5 週 空間 第 6 週 カーテン 第 7 週 家具 第 8 週 家具 第 9 週 人間工学 第 10 週 キッチン 第 11 週 個室 第 12 週 和室 第 13 週 照明 第 14 週 照明 第 15 週 総まとめ（試験）			
《後期》			

科目名	インテリア製図（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	インテリアコーディネーター実技試験対策 試験に出るインテリア製図の表現方法とパースの描き方の対策を行い練習する。		
授業の概要	インテリアデザインの基本的な考え方と表現力を習得する。 インテリアコーディネーターの製図試験に則した実習（製図）を行う。		
その他 （教科書・教材等）	製図道具 平行定規 着色道具		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第1週	インテリア製図（平面図）		
第2週	↓		
第3週	↓		
第4週	インテリア製図（展開図）		
第5週	↓		
第6週	パース		
第7週	↓		
第8週	パース		

科目名	建築積算（選択）	単位数	4
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	通年
授業の目的・目標	建築数量積算基準に基づく土工、躯体、仕上げの数量を鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造の設計例をもとに建築積算に関する基礎知識を習得し、実社会において必要不可欠な実践力も身につける。		
授業の概要	建築数量積算基準に基づき「建築積算」に関する基礎知識を学び、建築各部の数量拾いと工賃・材料単価の設定など、積算技術を身につける。建築物の生産過程において、建築積算とそれにもとづく経済性の検討は不可欠なものとなっており、実社会に即対応できる能力を習得する。		
その他 (教科書・教材等)	初めての建築積算（学芸出版社）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	積算の概要		
第 2 週	土工・地業（積算の区分と順序）		
第 3 週	土工・地業（設計例）		
第 4 週	土工・地業（土工の数量）		
第 5 週	土工・地業（土工の数量）		
第 6 週	土工・地業（地業の数量）		
第 7 週	土工・地業（地業の数量）		
第 8 週	鉄筋コンクリート造の積算（積算の区分と順序）		
第 9 週	鉄筋コンクリート造の積算（設計例）		
第 10 週	鉄筋コンクリート造の積算（コンクリート数量）		
第 11 週	鉄筋コンクリート造の積算（コンクリート数量）		
第 12 週	鉄筋コンクリート造の積算（型枠の数量）		
第 13 週	鉄筋コンクリート造の積算（鉄筋の数量）		
第 14 週	鉄筋コンクリート造の積算（鉄筋の数量）		
第 15 週	前期まとめ		
《後期》			
第 16 週	鉄骨造の積算（積算の区分と順序）		
第 17 週	鉄骨造の積算（積算の区分と順序）		
第 18 週	鉄骨造の積算（鉄骨の数量）		
第 19 週	鉄骨造の積算（鉄骨の数量）		
第 20 週	鉄骨造の積算（設計例）		
第 21 週	木造の積算（積算の区分と順序）		
第 22 週	木造の積算（積算の区分と順序）		
第 23 週	木造の積算（設計例）		
第 24 週	木造の積算（土工事・地業工事）		
第 25 週	木造の積算（土工事・地業工事）		
第 26 週	木造の積算（躯体工事）		
第 27 週	木造の積算（躯体工事）		
第 28 週	木造の積算（仕上工事）		
第 29 週	木造の積算（仕上工事）		
第 30 週	まとめ		

科目名	生産設計（選択）	単位数	1
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	建築工事に必要な施工図の書き方を学び実習を行う。		
授業の概要	<p>施工図の書き方。記号について。線の基準 ディテール（便所の防水、窓周り）のトレース 地中梁を書き壁芯と柱芯の関係を理解する。 1階躯体図を書き窓周り1枚の紙で全てを表現することを理解する。</p>		
その他 （教科書・教材等）	<p>モデル図面 プリント</p>		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	施工図とは、線の種類の理解		
第 2 週	便所防水・窓周りのディテールのトレース		
第 3 週	地中梁		
第 4 週	地中梁		
第 5 週	1階躯体図		
第 6 週	1階躯体図		
第 7 週	1階躯体図		

科目名	CAD実習Ⅲ（選択必修）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	教科書に沿って操作方法を習得し、作図課題を数回に分けて提出する。		
授業の概要	シェアの高い汎用CADソフトであるAutoCADを使用し、操作方法、建築CAD検定に向けてAutoCADでの受験可能な状態まで習得。		
その他 (教科書・教材等)	①AutoCADトレーニングテキスト（2007対応）（Autodeskマスター試験センター）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1週 AutoCADの基本操作</p> <p>第2週 作成コマンド</p> <p>第3週 作成コマンド</p> <p>第4週 修正コマンド</p> <p>第5週 修正コマンド</p> <p>第6週 修正コマンド画層、文字</p> <p>第7週 寸法、情報、ブロック</p> <p>第8週 図面作成（平面図）</p> <p>第9週 図面作成（平面図）</p> <p>第10週 図面作成（立面図）</p> <p>第11週 図面作成（立面図）</p> <p>第12週 図面作成（断面図）</p> <p>第13週 図面作成（矩計図）</p> <p>第14週 図面作成（矩計図）</p> <p>第15週 まとめ</p>			

科目名	CAD実習Ⅳ（選択必修）	単位数	2																			
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期																			
授業の目的・目標	設計計画で作成したプランをCAD化することにより、1年時に習得した基礎CADの習熟度を上げることを目的とする。卒業設計として作品を完成させ、プレゼンテーションを行うことを目標とする。																					
授業の概要	JW-CAD・AUTO-CADいずれかを用いての作図 又は3D CADを用いる。																					
その他 (教科書・教材等)																						
授業内容・授業計画																						
<div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>																						
<p>《後期》</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">第1週</td> <td style="width: 65%;">CADにて作図</td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td rowspan="14" style="text-align: center; vertical-align: middle;">↓</td> <td></td> </tr> <tr><td>第3週</td></tr> <tr><td>第4週</td></tr> <tr><td>第5週</td></tr> <tr><td>第6週</td></tr> <tr><td>第7週</td></tr> <tr><td>第8週</td></tr> <tr><td>第9週</td></tr> <tr><td>第10週</td></tr> <tr><td>第11週</td></tr> <tr><td>第12週</td></tr> <tr><td>第13週</td></tr> <tr><td>第14週</td></tr> <tr><td>第15週</td></tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20%;">3D 設計主旨 面積表 完成 プレゼンテーション（発表・選考会）</p>				第1週	CADにて作図		第2週	↓		第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週
第1週	CADにて作図																					
第2週	↓																					
第3週																						
第4週																						
第5週																						
第6週																						
第7週																						
第8週																						
第9週																						
第10週																						
第11週																						
第12週																						
第13週																						
第14週																						
第15週																						

科目名	特別講習 I・II (電気工事士)	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	国家資格である第二種電気工事士取得を目標に、筆記試験と技能試験対策を学ぶ。		
授業の概要	筆記試験対策として、電気の基本と回路について学習する。 技能試験対策として、配線回路の作成実技を練習する。		
その他 (教科書・教材等)	第二種電気工事士筆記試験 プリント 電気工事用工具		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	筆記試験問題と解答・解説		
第 2 週		↓	
第 3 週		↓	
第 4 週		↓	
第 5 週		↓	
第 6 週		↓	
第 7 週		↓	
第 8 週		↓	
第 9 週		↓	
第 10 週	技能試験	想定候補問題の実技練習	
第 11 週		↓	
第 12 週		↓	
第 13 週		↓	
第 14 週		↓	
《後期》			
第 1 週	実施試験問題と解答・解説		
第 2 週		↓	
第 3 週		↓	
第 4 週		↓	
第 5 週		↓	
第 6 週		↓	
第 7 週		↓	
第 8 週		↓	
第 9 週		↓	
第 10 週	技能試験	想定候補問題の実技練習	
第 11 週		↓	
第 12 週		↓	
第 13 週		↓	
第 14 週		↓	

科目名	課題研究Ⅰ・Ⅱ	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前後期
授業の目的・目標	これまで学んだ知識をもとに、建設事例の問題を提案し、その解決を考える。また建築・土木以外の資格挑戦も行う。		
授業の概要	建築・土木の知識の復習。事例提案。国家試験問題解説。		
その他 (教科書・教材等)	配布資料・プリント		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第1週	建築・土木の知識の復習。事例提案。国家試験問題解説。		
第2週	↓		
第3週	↓		
第4週	↓		
第5週	↓		
第6週	↓		
第7週	↓		
第8週	↓		
第9週	↓		
第10週	想定候補問題の解答・解説		
第11週	↓		
第12週	↓		
第13週	↓		
第14週	↓		
《後期》			
第1週	建築・土木の知識の復習。事例提案。国家試験問題解説。		
第2週	↓		
第3週	↓		
第4週	↓		
第5週	↓		
第6週	↓		
第7週	↓		
第8週	↓		
第9週	↓		
第10週	想定候補問題の解答・解説		
第11週	↓		
第12週	↓		
第13週	↓		
第14週	↓		

科目名	造園演習（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	2級造園施工管理技士学科試験の合格を目的とする。		
授業の概要	理論、計画、施工、法規の各項目ごとによる説明を行い練習問題と過去問をくり返し習得させる。		
その他 （教科書・教材等）	2級造園施工管理技士試験テキスト（実教出版）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	施工 躯体		
第 2 週	施工 躯体		
第 3 週	施工 仕上		
第 4 週	施工 仕上		
第 5 週	建築材料		
第 6 週	一般構造 計画原論	模擬テスト	
第 7 週	模擬テスト		
第 8 週	模擬テスト		

科目名	港湾工学	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年（土木系選択）	学期	前期
授業の目的・目標	1. 講義テーマ ・振動と波の要素 ・潮汐 ・津波 ・海岸保全 2. 目標 ・振動と波の解析技術を習得する。		
授業の概要	1. 講義内容の説明 2. 講義 3. 演習		
その他 (教科書・教材等)	教科書：海岸工学概論		
授業内容・授業計画			
《前期》 第 1 週 振動 第 2 週 単振動、バネ、振り子 第 3 週 単振動、バネ、振り子 第 4 週 単振動、バネ、振り子 第 5 週 縦波、横波 第 6 週 縦波、横波 第 7 週 縦波、横波 第 8 週 海の波 第 9 週 潮汐 第 10 週 潮汐 第 11 週 津波 第 12 週 津波 第 13 週 海岸保全 第 14 週 海岸保全 第 15 週 まとめ			
《後期》			

科目名	施工インターンシップ°・前期（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	現場管理および施工業務全般についての専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と意識を高める。尚、作業現場は基本的には公共建築とし、県・市・建設業協会の連携で実施する。		
授業の概要	協力企業の施工現場で施工担当者から直接的指導を受け、実技研修により技術のリテラシー（現場・現実・現物）を知る。作業終了後、研修日誌、報告書を作成する。		
その他 （教科書・教材等）	毎回行う作業に応じ施工会社に資料を提供して頂く。		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 回 開講式</p> <p>第 2 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 3 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 4 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 5 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 6 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 7 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 8 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 9 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 10 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 11 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 12 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 13 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 14 回 KY活動・現場実習・研修日誌作成</p> <p>第 15 回 閉講式</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	土木概論	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	後期
授業の目的・目標	1. 講義テーマ ・ 土木工学とは何か ・ 土木の歴史 ・ 構造物と材料 ・ 材料と力学の関係 ・ 有限要素法 2. 目標		
授業の概要	1. 講義内容の説明 2. 講義 3. 演習		
その他 (教科書・教材等)	教科書：わかるメンテナンス (学芸出版)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	土木工学とは何か		
第 2 週	土木工学の分野		
第 3 週	社会資本		
第 4 週	土木の歴史		
第 5 週	歴史に見る土木遺産		
第 6 週	古代ローマの道		
第 7 週	構造物と材料		
第 8 週	木材、石、レンガ		
第 9 週	コンクリート		
第 10 週	鋼材		
第 11 週	鋼材		
第 12 週	弾性力学		
第 13 週	材料と力学の関係		
第 14 週	塑性力学		

科目名	水理学	単位	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年（土木系選択）	学期	前期
授業の目的・目標	1. 講義テーマ ・水の物理法則 ・浮力と安定 ・管路の流れ ・開水路の流れ 2. 目標 ・水理計算技術を習得する。		
授業の概要	1. 講義内容の説明 2. 講義 3. 演習		
その他 (教科書・教材等)	教科書：水理学入門（実教出版） 参考書：水理公式集、岩佐義朗著「水理学」		
授業内容・授業計画			
《前期》 1 静水圧 2 水の流れ 3 管水路 4 開水路 5 オリフィス・ゲート・せき			
《後期》			

科目名	工学基礎	単位	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	後期
授業の目的・目標	建設技術者として、また工学を学ぶために必要な基礎及び、数理的な基礎知識を身につける。		
授業の概要	講義・教科書・プリントを使用して理解させる。		
その他 (教科書・教材等)	専門基礎ライブラリー 基礎物理1 (実教出版)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
1 物理量のとらえ方 2 位置と運動 3 釣り合う力 4 質点の運動と力学 5 運動量とエネルギー 6 剛体の運動			

科目名	施工管理	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	前期
授業の目的・目標	工事における管理は、工程・品質・安全の3分野に大別される。本講座では実際の工事管理経験を踏まえ、より実践的な施工管理技術を学ぶ		
授業の概要	教科書および実例をもとに工事における施工管理の手法を学ぶ。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第 1 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 2 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 3 週 施工計画・請負契約約款</p> <p>第 4 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 5 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 6 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 7 週 工程管理—ネットワーク他の工程表管理手法</p> <p>第 8 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第 9 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第10 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第11 週 品質管理—ヒストグラム・管理手法</p> <p>第12 週 安全管理</p> <p>第13 週 安全管理</p> <p>第14 週 安全管理</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	河川工学	単位	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年(土木系選択)	学期	後期
授業の目的・目標	<p>河川は市民生活にどのような影響があるのかを考え、土木工学的にはどのように接すればよいかを考える。</p> <p>1. 講義テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川の機能 ・洪水災害の要因 ・洪水対策 ・土砂災害の要因 ・砂防対策 		
授業の概要	<p>1. 講義内容の説明</p> <p>2. 講義</p> <p>3. 演習</p>		
その他 (教科書・教材等)	教科書：河川工学（コロナ社）		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
<p>1 川と河川工学</p> <p>2 河川の地形学</p> <p>3 河川の水文学</p> <p>4 河川の水理学</p> <p>5 流砂と河床変動</p> <p>6 河川計画</p>			

科目名	火薬学	単位	5
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年（土木系選択）	学期	前後期
授業の目的・目標	爆薬・火薬は建設工事において、各所で使われている。この火薬類の危険性を十分に認識して、安全かつ経済的に使用する方法を学ぶ。尚、この講義は夏季休暇中にも集中講義を行なう。またこの講義取得者は、甲種火薬類取扱保安責任者試験（国家試験）の半分免除規定を適用される。		
授業の概要	教科書及びプリント		
その他 （教科書・教材等）	一般火薬学（日本火薬工業会）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1回～第2回 概論 火薬の歴史、火薬の定義</p> <p>第3回～第5回 火薬の分類、性質</p> <p>第6回～第7回 爆薬・硝酸エステル系爆薬の分類、性質</p> <p>第8回～第9回 火工品について</p> <p>第10回～第11回 火薬類の組成</p> <p>第12回～第13回 火薬類の製法</p> <p>第14回～第15回 火薬類の試験法</p> <p>第16回～第18回</p>			
<p>発破期基礎 ハウザーの公式及び発破理論</p> <p>第19回～第20回 発破の技術1 ベンチ発破・盤打ち発破</p> <p>第21回～第22回 発破の技術2 トンネル発破</p> <p>第23回～第24回 発破の技術3 制御発破・水中発破</p> <p>第25回～第27回 発破の影響 発破振動・発破音について</p> <p>第28回～第30回 発破の影響 周辺住民・環境に与える影響</p> <p>第31回～第33回 火薬取締法の解説</p> <p>第34回～第36回 火薬取締法施行令・施行規則の解説</p>			

科目名	鉄筋コンクリートⅠ・Ⅱ	単位数	2・2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1年（土木系選択）	学期	前後期
授業の目的・目標	土木建築構造物において、鉄筋コンクリート構造は基本中の基本構造である。 鉄筋コンクリート構造の歴史と原理そして演習を通じ、シビルエンジニアとしての基本的技術対応能力を養うことを目的とする。		
授業の概要	教科書を中心に、基礎的な講義と演習で理解させる		
その他 (教科書・教材等)	絵とき 鉄筋コンクリートの設計 (オーム社)		
授業内容・授業計画			
《前期》			
第 1 週	鉄筋コンクリートの歴史と原理		
第 2 週	鉄筋コンクリートの歴史と原理		
第 3 週	設計法の変遷		
第 4 週	設計法の変遷		
第 5 週	現行設計法		
第 6 週	現行設計法		
第 7 週	現行設計法		
第 8 週	現行設計法		
第 9 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第10 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第11 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第12 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第13 週	鉄筋コンクリート”はり”の設計		
第14 週	演習		
第15 週	まとめ		
《後期》			
第 1 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 2 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 3 週	鉄筋コンクリート梁の破壊形態確認実験		
第 4 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 5 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 6 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 7 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 8 週	鉄筋コンクリートの基本原理と施工上の留意点		
第 9 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第10 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第11 週	鉄筋コンクリート構造物の変状		
第12 週	変状と対策		
第13 週	変状と対策		
第14 週	変状と対策		
第15 週	まとめ		

科目名	建設法規（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	現在の建設工事を進める上では様々な法律がある。その法規を理解するとともに実例で考える。また、これからの重要問題になるであろう環境法規についても解説する。		
授業の概要	教科書および社会実例をもとに解説する。		
教科書・教材等	参考書：土木施工管理技術テキスト法規編（地域開発研究所） 環境法入門（有斐閣）		
授業内容・授業計画			
<p>《前期》</p> <p>第1週 労働関係法令、建設業関係法令 第2週 労働関係法令、建設業関係法令 第3週 労働関係法令、建設業関係法令 第4週 労働関係法令、建設業関係法令 第5週 労働関係法令、建設業関係法令 第6週 労働関係法令、建設業関係法令 第7週 道路交通関係法令、建築基準法 第8週 道路交通関係法令、建築基準法 第9週 道路交通関係法令、建築基準法 第10週 環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令 第11週 環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令 第12週 環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令 第13週 環境関連法規 第14週 環境保全対策関係法令、建設副産物関係法令 第15週 まとめ</p>			
<p>《後期》</p>			

科目名	測量演習Ⅱ（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	前期
授業の目的・目標	測量演習Ⅰに引き続き、高校数学や地理を活用して、測量の解説を行い、練習問題を解く。また測量とコンピュータの関係を説明し、理解させる。測量士補受験希望者は必ず受講すること。 測量演習Ⅰの単位取得者のみ受講可。		
授業の概要	教科書及びプリントを使用して、演習形式の講義をする。 春休み中に、4日間(各日4限)集中講座として行う。		
その他 (教科書・教材等)	測量士補過去問マスター（東京法経学院）		
授業内容・授業計画			
<p>《春期集中》</p> <p>第 1 回 GPS 測量</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第 2 回 面積・体積計算</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第 3 回 道路測量</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第 4 回 写真測量</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第 4 回 総合課題</p>			
《後期》			

科目名	実践測量（選択）	単位数	1
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	企業において必要な測量を実習する。現場ですぐ使える技術を習得する。基本墨から実際的な原寸墨への展開を理解させ、図面と一体化した施工の流れを身につけさせる。		
授業の概要	野外実習を基本とする。測量機器に触れさせる機会をなるべく多くもたせ、慣れることによる操作法の習得を目指す。		
その他 (教科書・教材等)	基本測量（実教出版） 野帳、電卓、ペンは必ず持参すること		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第 1 週	レベル測量		
第 2 週	レベル測量		
第 3 週	レベル測量		
第 4 週	トランシット測量		
第 5 週	トランシット測量		
第 6 週	トランシット測量		
第 7 週	トランシット測量		
第 8 週	トランシット測量		
第 9 週	トランシット測量		
第 10 週	光波トランシット測量		
第 11 週	光波トランシット測量		
第 12 週	光波トランシット測量		
第 13 週	光波トランシット測量		
第 14 週	総合		
第 15 週	総合		

科目名	実践造形（選択）	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科2年	学期	後期
授業の目的・目標	設計計画で作成したプランを模型化することにより、1年時に習得した基礎造形、応用造形の習熟度を上げることを目的とする。卒業設計として作品を完成させ、プレゼンテーションを行うことを目標とする。		
授業の概要	スチレンボードを使用しての模型製作		
その他 (教科書・教材等)	工作道具 材料		
授業内容・授業計画			
《前期》			
《後期》			
第1週	模型制作	型取り	
第2週	↓		
第3週		組立	
第4週			
第5週		細部造形	
第6週			
第7週			
第8週			
第9週		敷地	
第10週		植木	
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			

科目名	設計インターンシップ (夏期A) (選択)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	前期
授業の目的・目標	設計監理・設計業務全般並びについての 専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と知識を高める。		
授業の概要	協力企業の事務所において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《夏期集中講座》</p> <p>兵庫県建築設計監理協会主催 「ワークスタディ」 期間：前期試験終了後から9月末日までの10日間～12日間（休日を除く） ※実習内容・実習時期については、受入れ事務所により違いがあります。</p>			
《後期》			

科目名	設計インターンシップ (夏期B) (選択)	単位数	2
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	前期
授業の目的・目標	設計監理・設計業務全般並びについての 専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と知識を高める。		
授業の概要	協力企業の事務所において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。		
その他 (教科書・教材等)			
授業内容・授業計画			
<p>《夏期集中講座》</p> <p>兵庫県建築設計事務所協会姫路支部主催 「ワークスタディ」</p> <p>期間：前期試験終了後から9月末日までの10日間～12日間（休日を除く） ※実習内容・実習時期については、受入れ事務所により違いがあります。</p>			
《後期》			

科目名	設計・施工インターンシップ I・II（選択）	単位数	1又は2 （日数による）
対象学科・履修学年	環境建設工学科1・2年	学期	通年
授業の目的・目標	新規に企画されたインターンシップや、各自で探してきた現場・設計事務所において必要日数間（概ね1週間～2週間）実習を行う。専門知識の深化と共に、職業意識に対する理解と意識を高める。また、複数回参加したインターンシップも、この科目とする。		
授業の概要	協力企業の事務所、現場において実習を行う。研修日誌、報告書を作成する。 インターンシップ I は、7日以上の実習期間 インターンシップ II は、14日以上の実習期間 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、そ		
その他 （教科書・教材等）			
授業内容・授業計画			
《通年期間中》			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 協力企業で担当者から直接的指導を受け、実技研修により技術のリテラシー（現場・現実・現物）を知る。 2) 実習後、企業担当者に研修日誌のチェックを受け、最終的に報告書を作成・提出する。 3) 7日以上の実習で1単位、14日以上の参加で2単位とする。 その他、複数回参加する学校カリキュラムのインターンシップは、その単位数に準ずる。 			